

23.p183 2. 図の書き方

写真が複数枚あり、キャプションがついているものとついていないものが混在している本です。写真の内容説明については全て省略し、キャプション付きのものだけ、キャプションのみを点訳することとしました。

点訳方法として複数写真がある場合、各見出しの終わりに仕切りの線を引き、そのあと「シャシ■ ■数〇マイ」と見出しを作り、そのあとにキャプションを書くこととしました。

写真の全部にキャプションがついてあった場合は、枚数かかれてあればより親切だなと思ってつけたのですが、キャプションなしとありが混在していたら、点訳しているキャプションの数と枚数が合わずに読者が違和感を覚えるのではないかとこの意見がありました。全部にキャプションがついていれば枚数明記、そうでなければ枚数を入れない、もしくはキャプションありの枚数だけをとという風に臨機応変に対応してもいいのでしょうか。

てびきの例(p186)のように番号がふってあればよいのですが、ふっていないことも多いです。何か良い方法があればご教示いただけないでしょうか。

【A】

写真の処理については、「てびき」p207「9. 点訳書凡例」の⑥図や表、グラフ、写真などの処理方法にありますように、点訳書凡例で断ることをお勧めしています。

原本の位置ではなく、各見出しの終わりなどにまとめて入れることが多いと思いますので、その位置を示す必要があります。その際、写真に番号を付けたことや、キャプションのある写真だけを示したこと、またはキャプションのない写真には点訳挿入符で簡単な説明を入れたことなどを書くことにすれば、点訳の意図も伝わりますし、工夫して分かりやすく書くことができます。

ご質問のような処理の仕方の場合、例えば、

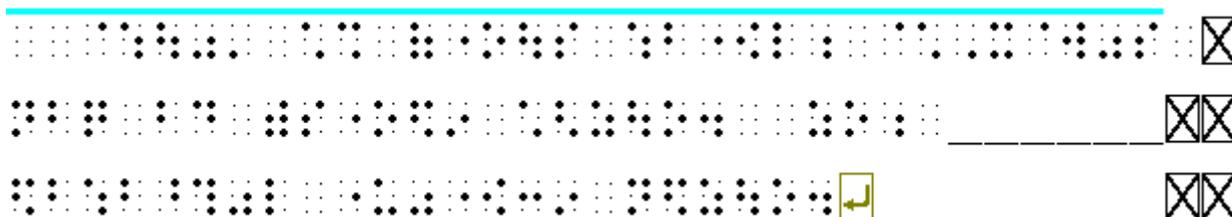
写真は各見出しの最後に、キャプションの付いているものだけを書きました。また、掲載順に番号を付けました。

のようにすればよいと思います。

例

点訳書凡例で

写真は各見出しの最後に、キャプションの付いているものだけを書きました。また、掲載順に番号を付けました。



29.p183 2. 図の書き方

原本に8か所図表が記載されています。

そのうち、2、3の図表の内容把握が、複数の点訳者で読み解くのですが、困難です。表示の範囲、内容に不明な点が多く、無理に読み解き、表記するのが不安です。

わかる範囲での書き記しはするつもりです。点訳書凡例で断り、本文中でも該当図表を省略したことを記することは可能でしょうか。その場合の判断基準、凡例例文などもお願いします。

【A】

原本の図表のなかには、本文に概要が書いてあり、原文内容の読み取り、理解に差し支えがない図表も多くありますし、また、概要が分かればすべて説明をしなくてもよいものや、墨字を読む人も視覚的な傾向を大まかにみただけの図表なども含まれます。

できるだけ点訳した方がよいものの、何ページにもわたる表になって、原文の意図する主要内容から離れてしまうようでは省略した方がよいとも言えます。

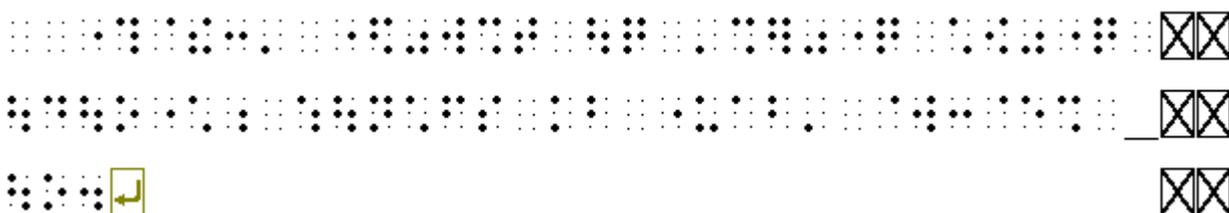
点訳書凡例で、《図表は原則として枠線で囲んで記したが、差し支えのない場合は省略した。》と断わり、本文の該当箇所、図表の番号、タイトルを入れ、その後に、ショーリャクと書けばよいと思います。

図表をそのままの形でなく、文章で説明する場合も枠線の中に書きます。点訳挿入符で、《図を言葉で説明する》《図を文章化して記す》などと断ります。

例

点訳書凡例で

図表は原則として枠線で囲んで記したが、差し支えのない場合は省略した。



点訳挿入符で

図を言葉で説明する



図を文章化して記す



30.p183 2.図の書き方

図を省略する場合、図の番号やタイトルの後に「省略」と書くことを断っておけば、図の番号やタイトルの後に第1カッコで囲んだり、図の番号、タイトルと共に第1カッコで囲むことができるということです。

(図5)南部バプティスト連盟所属の教会の分布と信者数 という図があり、この図を省略する場合について質問します。

本文は 例えば、次の(図5)は、「南部バプティスト連盟」全米でのネットワークを示しており、…。となっています。

図の番号、タイトルとともに第1カッコで囲むことができるということです。

例えば、次の(図5■■南部■■バプティスト■■連盟■■所属■■教会の■■分布と■■信者数((図は省略)))は■■「南部バプティスト連盟」全米での…。と省略までカッコで囲んで書いてよいということでしょうか。((…))は二重カッコです。

この図以外にも省略する図があり、出典も書かれています。

省略しないほかの図と同じように段落の切れ目などに枠線で囲み、その中に図の番号、タイトルを書き次行3マス目から(図は省略)とカッコ、または点訳挿入符で((図は省略))と書き、最後に出典も書くということでもよいのでしょうか。図を省略する場合は、出典も省略してよいのでしょうか。

【A】

省略した図は点訳書には無いわけですから、そのために長いスペースを割いて本文を途切れさせることのないように工夫します。

こうしなければならないという一つの方法があるわけではありません。読みやすく情報を伝えるように工夫することが大切になります。

例えば

1. 凡例で、《図は枠線内に囲んで書きますが、図の内容について本文に説明がある場合は省略しました》と書き、番号もタイトルも出典も省略することもできます。

その場合、本文に、《次の図5は～》とあり、「図5」という語を省くわけにはいかない場合だけ《次の図5(図省略)は～》と入れます。

2. 凡例で、《図を省略した場合もあります。その場合は、図の番号・タイトル・出典を各小項目の最後にまとめて書きました。》と断わり、5マス目からの見出しの最後に仕切りのための線を引き、図の番号順に、番号、タイトル、出典を書きます。

等の書き方があると思います。

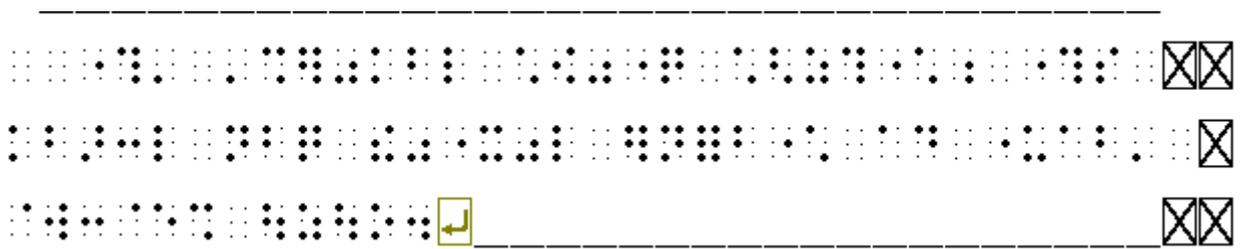
ご質問にある《次の(図5■■南部■■バプティスト■■連盟■■所属■■教会の■■分布と■■信者数((図は省略)))は～》のような書き方は、タイトルが重複していたり、二重カッコがあったりして、何もない図のために煩雑な文を読まなければならなくなりますので、避けた方がよい例となります。

いろいろな図があり、その原文によって必要度も異なってきますので、その都度工夫が必要になります。

例

1. 点訳書凡例で

図は枠線内に囲んで書きますが、図の内容について本文に説明がある場合は省略しました。



番号もタイトルも出典も省略することもできます。

本文で省くことができない場合、

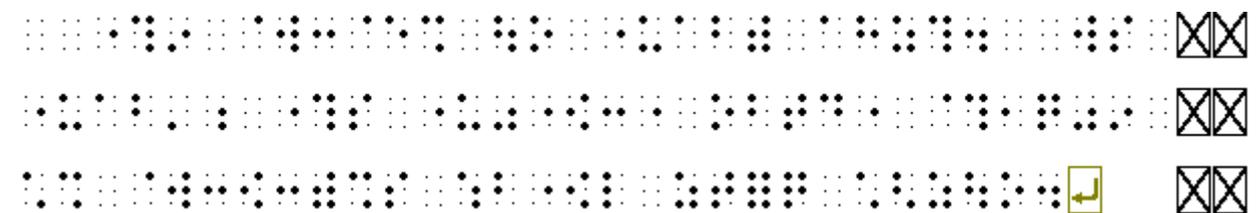
点訳挿入符で

《次の図5は～》 → 《次の図5(図省略)は～》といれる

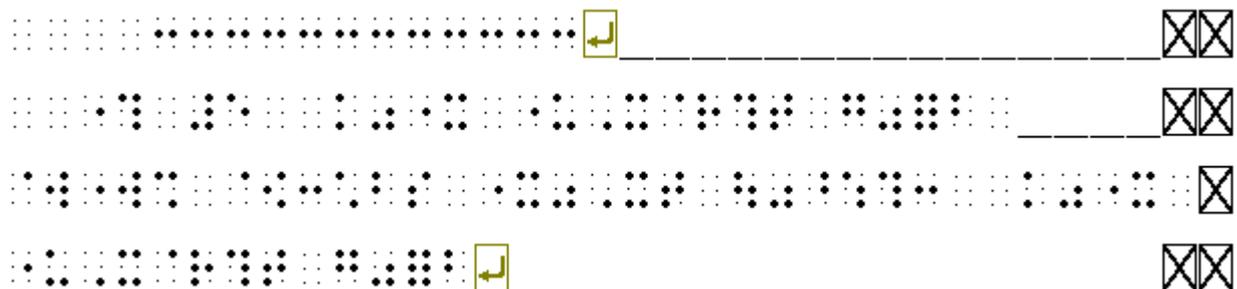


2. 点訳書凡例で

図を省略した場合もあります。その場合は、図の番号・タイトル・出典を各小項目の最後にまとめて書きました。



凡例で断ったあと、5マス目からの見出しの最後に仕切りのための線を引き、図の番号順に、番号、タイトル、出典を書きます。



『点訳フォーラム』より

37.p186「コラム 33」

集合写真の説明を入れるとき、原本に「左から二人目・・」という説明が書かれている場合は、原文通りで構わないでしょうか。

【A】
このことについて特にルールはありません。
本文を読む上で写真での位置関係がわからないと困るような場合は、原文通りに入れますが、なくても特に困らない場合は、省略しても構いません。
名前の後ろに(右)(中)(左)(後列右端)などとあったり、(左から順に)などは、点字では省略してよいと思います。

ただ、前後のキャプションとつながっていて省きにくい場合(省くと文の収まりが悪くなるなど)もありますので、そのときには、原文通りに書く場合もあります。



原本は以下のようになっています。

(例1) 城を背にして(右端がマイケルさん) (例2) 一番奥がリオちゃん

この写真説明を

(例1) 城を背にして(マイケルさん) (例2) リオちゃん

としてしまっは、文意が通じません。(説明として成り立たない)・

(省くと文の収まりが悪くなるなど)

なので、このケースでは、そのまま

(例1) 城を背にして(右端がマイケルさん) (例2) 一番奥がリオちゃん

50.p189 「コラム 34」

写真のキャプションに、人物の位置を表わす(右)・(中央)などのカッコ書きが出てきますが、これは省くことができますか。

【A】
とくに規則はありませんが、特別な理由がない限り、省略して差し支えないと思います。

図33(右上) 「古ヨーロッパ」の女性像。大理石製。ペロポネソス、スパルタ出土。前6000年ごろ (M・ギンブタス『古ヨーロッパの神々』言叢社)



図34(右下) 「古ヨーロッパ」の男根像。テッサリア、ツァングリ出土。前6000年ごろ (同上書)



図35(下) 「古ヨーロッパ」の蛇各種。
 左上▶土偶の蛇。ユーゴスラヴィア出土。前6千年期末、
 右上▶皿を装飾する蛇。スロヴァキア、ドヴォリイ・ナド・ジタヴォラ墓塚出土。前5千年紀初頭、
 左下▶壺に描かれた蛇。ルーマニア、ビルシュ・ズローテ出土。前4千年紀前半、
 右下▶蛇女神の小像。クレタ、カト・イエラベタ出土。新石器時代 (同上書)



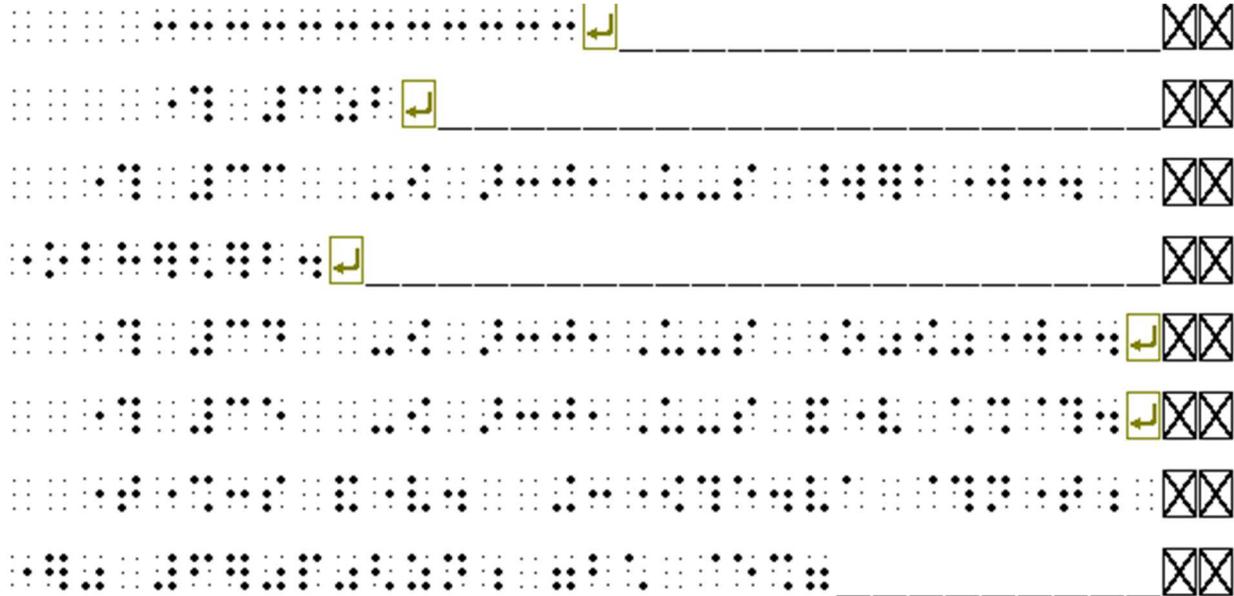
図33(右上) 「古ヨーロッパ」の女性像。大理石製。ペロポネソス、スパルタ出土。前6000年ごろ (M・ギンブタス『古ヨーロッパの神々』言叢社)

図34(右下) 「古ヨーロッパ」の男根像。テッサリア、ツァングリ出土。前6000年ごろ (同上書)

図35(下) 「古ヨーロッパ」の蛇各種。
 左上▶土偶の蛇。ユーゴスラヴィア出土。前6千年期末、
 右上▶皿を装飾する蛇。スロヴァキア、ドヴォリイ・ナド・ジタヴォラ墓塚出土。前5千年紀初頭、
 左下▶壺に描かれた蛇。ルーマニア、ビルシュ・ズローテ出土。前4千年紀前半、
 右下▶蛇女神の小像。クレタ、カト・イエラベタ出土。新石器時代 (同上書)

→ (拡大版)

(一部説明を省略しています)



ズ 3 マイ

ズ 33 コ ヨーロッパノ ジョセイゾー。
 ダイリセキセイ。

ズ 34 コ ヨーロッパノ ダンコンゾー。

ズ 35 コ ヨーロッパノ ヘビ カクシュ。

ドグーノ ヘビ。 ユーゴスラヴィア シュツド、

ゼン 6 センネンキマツ、 (以下略)

『てびき Q&A』より

Q142 音訳の場合、写真が掲載されているとまずキャプションを読み、それで十分でないときは、注を入れて説明します。写真や挿し絵も大事な情報と思いますが、点訳の場合、写真が省略されるのはなぜでしょうか？

A:音訳では、雑誌の表紙の写真や記事に付いている写真なども、大切な情報として、目の代わりとなって説明しますが、点訳では、内容を読み進むのに必ずしも必要でない付加的な情報であれば省略することが原則になります。これは、耳から音として入ってくる情報と指で文字を読む情報の違いでもありますし、音訳・点訳の姿勢の違いもありますので、必ずしも同じような処理をする必要はなく、それぞれの特徴を生かして情報を伝えることが望ましいと言えます。p186「コラム 33」を参照してください。

【写真】



ニューヨークにあったクーパーズ・フィッシュ・アンド・チップス・ストア (1963 年)

【点字例】 キャプションのみ

.....
.....
.....
.....

【音訳例】

説明

店内の奥から出入り口の方に向けて撮影した写真です。
向かって左側にカウンターとカウンター席。客がいっぱい座っています。
カウンターの中では店員が働いています。中央の通路をはさみ、写真むかって右側にはテーブル席。こちら満席です。
出入口周辺には、立って順番を待つ人の姿も写っています。
説明おわり。

九九表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

